

Art for Life Art for Life

ライフスキル研究所だより Vol.37



NPO 法人ライフスキル研究所

<http://lifskill-npo.org/>

<http://lifskill.blog.so-net.ne.jp/>

アート×エデュケーション：世界の多彩な活動 —第2回 WCAE in ソウルに参加して

5月25～28日、ソウルで開催されたユネスコの World Conference on Arts Education (WCAE; 芸術教育世界会議)に参加しました。世界各地から教育者、研究者、アーティスト、NGOなどが集い、美術、音楽、演劇、舞踊など幅広いジャンルについて発表や意見交換が行われました。

多岐にわたる発表の中でも、当研究所の活動との関連から特に興味深かったのは、学校外でのアート活動や学校とNGO(NPO)との連携による活動、アートのもつセラピー的側面に注目した活動などに関するものです。

世界のあちこちで、法律に定める学校や専門家養成機関だけでなく、コミュニティにおけるアート活動が活発に行われており、特に後者におけるアート活動は、それぞれの社会が抱える様々な課題の克服や解決に深くコミットしていること、それゆえにアートのもつセラピー的側面が重要な意味をもつことが浮かび上がってきました。そして、この分野において、世界各地でNGOが重要な役割を担っていることにも、大変刺激と感銘を受けました。

また、個人であれ集団であれ、アート表現はアイデンティティと深く関わっていることを改めて認識させられた4日間でもありました。世界には、紛争や飢餓、災害などのために、人々の基

本的な生存が脅かされている地域もあります。そうした地域からの参加者の発言には、日本ではあまり意識することのないアートの側面に目を開かれることもありました。アートには(個人だけでなく)ダメージを受けた社会や文化を癒す働きがある、というアフリカ系の発表者の言葉が強く印象に残ります。傷ついた個人や社会が自らのアイデンティティを再確認し、誇りを取り戻すプロセスに、アートは本質的な働きをするのかもしれない。

一方で、特定の思想や権力のプロパガンダに利用され得るものでもあり、アートが孕むそうした危険性に警鐘を鳴らす指摘もありました。

最後に、全体を通じて深く考えさせられたのは、世界というフィールドの中で見たとき、日本の子どもたちが直面している問題の本質は何だろうか、ということです。世界の中で見れば、日本の子どもは生存や成長を妨げる障害が殆どない環境に生きていると言えます。にもかかわらず、これほど子どもの育成に困難をきたしているのは何故か。日本の子どもの問題は、他の国々のそれと比べても、最も解明と説明が難しい部類に入るかもしれません。世界的視野の中で日本の子どもに関する問題を位置づけ、次なる活動の局面を切り開いていきたいと思えます。(副理事長・小村みち)



会場には世界の子どもの作品展示も。レセプションでは韓国の伝統芸能が披露された。

ライフスキル・アート研究会スタート!

5月23日、参加者12名でライフスキル・アート研究会がスタートしました。メンバーは、絵画教室指導者やアートセラピー関係者、書道講師や児童福祉施設スタッフなど多彩、中には岡山から来られた方も。第1回目は、40代女性のコラージュ連作10数点についてのケース発表と検討を行いました。クライアントの心の叫びにも似た作品の数々は、苦しい境遇にある人間のやむにやまれぬ表現の力、生き延びるための表現について、参加者それぞれの感想をもったようです。意見交換のあとは、カウンセラー(発表者)からの提案で、参加者一人ひとりからクライアントへのメッセージを書きました。最後はコラージュ制作でリフレッシュ。初回ということで、少々緊張気味の方もおられましたが、ボリュームある充実の3時間となりました。次回以降もどうぞご期待ください。



こころを支えるからだをつくる —「アローン操体法」について(後編)



当研究所ではサルウテム CPI's(有)との連携のもと、週1回「アローン操体クラブ」という健康体操の会を催しています。なぜアート系 NPO で健康体操?と思われるかもしれませんが、体なくして生命もありえません。生きる技術を追求する当研究所ならではの活動ともいえるでしょう。深く静かに続けられ、7年目を迎える「アローン操体」紹介の後編です。

■健康増進のために

健康の維持・増進には、適度な運動に加えて「やや負荷となる程度の運動」が望ましいと考えています。その運動として、当クラブでは「八段錦」と「(健康)太極拳」を実施しています。

「八段錦」とは、紀元前には演じられていたと思われる中国古代の気功体操で、2千余年を経て生き残った健康体操法です。

「太極拳」は比較的新しく、清の時代(1800年前後)に宮廷役人の健康増進の目的で、楊露禪という武芸者が考案したとされています。楊露禪は「楊無敵」の異名を持つほどの拳術の達人で、役人に武芸の修練を行うよう要請されていました。しかし当時の役人は軟弱でとても武芸の上達など望めない状況であり、まず体力向上が先決として、弁髪にダブダブの官服姿の役人でも実践できるよう拳術の技を基本に編み出したといわれます。

武術など覚束ない軟弱な人々を対象に始まった点、体育音痴の筆者には励みになる誕生譚です。その効果は広く認められ、第2次大戦後に民衆が容易に実践でき健康増進が図れるようにと、中国新政府の肝いりで整備されたのが「簡化24式太極拳」です。



ただ、何事もそうですが、“今日実践して明日には効果が現れる”というものではありません。リハビリの世界的権威者であるルネ・カリエは、“*Exercise must be a way of life.*”(運動は生活の一部とならなければならぬ)と述べており、筆者も前編で述べた苦い経験から信条の一つとしています。

年余にわたって「アローン操体クラブ」で実践して来られた方々は、何らかの形でその活動の効用を実感されているものと確信しています。「アローン操体」が皆様の日々の生活リズムの中に組み込まれ継続して実践されるとよきとの期待を込めてご紹介しました。さらに、「八段錦」・「簡化24式太極拳」にプラスαの運動を適宜加えると、一層の健康増進が図れるでしょう。体の面から、「ライフスキル(生きる技術)」のもう一つの側面を実践しようとした所以です。(おわり)

●平田 稔(サルウテム CPI's(有)代表・当研究所監事、PhD、アローン操体法考案者)

会員音信 ※皆様の活動や近況などをお寄せください。

●W.Rさん@熊本県 ●絵画教室主宰 ●

先日、教室に来ているAちゃん(小1・女子)のお母さんから連絡があり、Aちゃんがお母さんに「頭に角、口に牙、爪はとんがったお母さんの絵」を持ってきたということでした。お母さんは現在第4子を妊娠中で、長女のAちゃんにばかり怒っていることを自覚されており、もう手遅れかと思うほどショックだったそうです。私は、「しっかり謝ったらいい、手遅れなんかじゃない」とお返しし、お母さんがそうされると、Aちゃんの目が輝いたそうです。

また、同じく教室に来ているAちゃんの妹(4歳)が、お母さんが迎えに来られた時、「なんか帰りたくない。ずっとポレポレさん(=私)のそばにいたい」と言ったのです。お母さんまで「なんか、わかる」と言ってくださって、この家族に、フシギなくらいに励まされている気がします。

まだ自分らしいやり方もできておらず、気がひけますが、足をふんばって頑張ろうと思います。



■発行:NPO 法人ライフスキル研究所 ■編集:小村みち
〒563-0017 大阪府池田市伏見台 1-32-17
TEL072-750-2797 FAX072-750-2805 E-Mail info@lifeskill-npo.org
URL <http://lifeskill-npo.org/> Blog <http://lifeskill.blog.so-net.ne.jp/>

Information

2010.6-7



【参加者募集中】 アートで心の健康をまもる 講習会

日時:2010年7月28日(水)
場所:西宮市大学交流センター
(阪急西宮北口駅直結
ACTA 西宮東館6F)

参加費:無料

対象:アート・教育・福祉関係
者、保護者、学生など
定員:①講演:140名

②ワークショップ:60名
(いずれも先着順)

申込み:HP 又は FAXにて

★詳細は HP をごらんください

【生徒募集中】

アートのスペース子どもべや

池田:第1・3(火)16:00-17:15
伏見台:第1・2・3(金)16:30-18:00

※日時は変更になることがあります

★詳細は HP をごらんください

『アートで心の健康をまもる ハンドブック』 無料配布中



家庭や学校で手軽にできるアート
ワークを紹介するコンパクトな冊子
(A5/32P)★お申込みは HP より
※送料はご負担ください

【ご寄付】

匿名希望 5,000円
ありがとうございました。